



「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観」俯瞰図



A 甲府盆地を緩やかに下る日川と甲州街道

勝沼は東西・南北それぞれの方向で起伏に富み、日川の両岸には河岸段丘が形成される。北側上面には甲州街道（勝沼宿）が広がり、近世以来、人や物資の往来の中心であった。また、岩崎と呼ばれる南側上面の地域では、近代よりワイン醸造が盛んにおこなわれ、現在も多くのワイナリーが立地している。



B ひとと物資を運び続ける新旧の大日影トンネル

鉄道開通は勝沼のブドウ・葡萄酒出荷に大きな影響を及ぼした。現在も新トンネルは観光客を運び、旧トンネルは観光資源として活かされている。



C 岩崎から勝沼駅への出荷用ブドウ・ワインの運搬に使われた祝橋

鉄道開通でブドウ・ワイン出荷量は増加し、運搬のために日川には祝橋が架けられた。現在は昭和6年（1931）に竣工した3代目が地域の往來を支える。



D 鳥居平の麓に位置する甲州街道勝沼宿と今に受け継がれる旧商家建築群

甲州街道随一の賑わいをもった勝沼宿は近代以降には商業町へと役割を転じた。旧家の建築が現在も残り、鳥居平が正面に広がる。



E 甲州街道沿いに林立する観光ブドウ園

勝沼の観光ブドウ園は大型バスの駐車を考慮した高さの棚が特徴的である。また、売店は、自動車による観光客の動線を意識し、進行方向奥側に配置されている。



F 日川河岸段丘の下位面に広がるブドウ畑群

河岸段丘下位面にはブドウ畑が広がり、そのあいだを農道が縫うように走る。段丘崖の竹林は、かつて出荷用竹籠などの材料供給源として機能した。



G 住宅の庭にあるブドウ棚の下を流れる水路

勝沼には地形の高低差を巧みに利用した多くの水路が流れ、各家に水を供給してきた。水路は時に家の庭や背割、建物直下なども流れ、地域内を結ぶ。



H ブドウ棚の下に残る「ブドウ冷蔵庫」

地下水や水路などの自然の作用を利用してブドウを低温貯蔵した「ブドウ冷蔵庫」が大正時代から戦前にかけて造られた。今も勝沼地域に十数基が残る。



I 混在して広がる棚栽培と垣根仕立栽培のブドウ畑

伝統的な棚栽培に加え、近年、醸造用品種を中心に垣根仕立て栽培も広がりつつある。それらが混在してブドウ畑の景観が成り立っている。



J 集落の中に立地する勝沼地域の伝統的なワイナリー

勝沼地域のワイナリーは住宅やブドウ畑に囲まれて立地する。製糸業などから転じたワイナリーも多く、建物の一部はそうした歴史をとどめている。



K 地域に点在する大規模ワイナリーと醸造施設

勝沼地域では大小さまざまなワイナリーがそれぞれの信念をもってワインを醸造している。大規模なワイナリーでは土地利用・施設もスケールが大きくなる。



L 住居の中でおこなわれるブドウの出荷作業

ブドウの出荷作業は住居の入口に近い部屋でおこなわれることも多い。写真は通り土間をもつ勝沼宿の伝統的家屋でのブドウ出荷作業のようす。



M 地域住民の共同作業による自家消費用ワインの醸造（ブロックワイン）

自分が栽培したブドウでワインを搾る。近代以降に勝沼地域で受け継がれてきた生活文化が今も息づく。写真は大善寺を中心とした柏尾のワイン醸造。



N 鳥居焼で「聖火」をもって地域を走り抜ける中学生

大善寺で採火された「聖火」は、中学生全員が携えて地域を巡る。柏尾山へと至った火は鳥居形に灯される。地元が秋の訪れを感じる一瞬である。



O 半世紀の歴史をもつ地元中学生によるジベ処理体験実習

ジベレリン処理を施すことで種無しブドウが栽培できる。地元中学校では授業の一環として全員がこの作業を経験し、地域の基幹産業を体験的に学ぶ。

勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観 調査報告書

[ウェブ版]

2019

甲州市
甲州市教育委員会

例言

1. 本書は、山梨県甲州市勝沼町一帯に所在する文化的景観（「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観」）の調査報告書である。
2. 価値評価のための調査は、平成28年度～30年度に文化財国庫補助事業（文化的景観保護推進事業）及び山梨県文化財保存事業として実施した。
3. 調査は、甲州市及び山梨大学の共同研究として、甲州市教育委員会文化財課、山梨大学大学院総合研究部生命環境学域菊地研究室が関係機関の協力を得て実施した。また、地形・地質に関する調査は山梨県立大学地域研究交流センター輿水研究室、町並み・建築物に関する調査は工学院大学建築学部建築デザイン学科がそれぞれ実施した。
4. 建築に関する図面作成の一部は、一級建築士事務所 アルケドアティスに委託して実施した。
5. 調査に係る資料は、甲州市教育委員会文化財課及び調査実施機関が保管・管理している。
6. 挿図・図版に関する出典などは巻末に所蔵先・引用元を一覧として記載した。
7. 本書の編集は、山梨大学大学院総合研究部生命環境学域菊地研究室及び甲州市教育委員会文化財課がおこない、菊地淑人（山梨大学大学院准教授）、萩原麻由（甲州市教育委員会文化財課技師）が担当し、飯島泉、小倉真、齊藤陽介、前嶋康太郎、柳通めぐみがこれを補佐した。
8. 本書の編集及び挿図・表の作成に関しては、山梨大学生命環境学部地域社会システム学科学生の協力を得た。
9. 表紙デザインは、岩田美耶（山梨大学）がおこなった。
10. 報告書のとりまとめにあたっては、文化庁文化財第二課及び山梨県教育庁学術文化財課の助言を得た。
11. ウェブ版の作成にあたっては、冊子版に掲載されている一部図面（建造物に関する平面図等）について省略もしくは部分的な編集をおこなった（第3章第3節及び第4章第3節）。そのため、図版番号が冊子版と一致しない場合がある。その他、必要な補訂を加えた。

序

甲州市が誕生して13年が経過しました。市では「甲州市まちづくりプラン（第2次総合計画）」で、「豊かな自然 歴史と文化に彩られた 果樹園交流のまち」を将来像としてまちづくりを進めていますが、中でも平成25年4月に「甲州市景観計画」を策定し、景観行政団体となったことから、市の素晴らしい風景を後世に伝えていくため、官民連携による景観形成を進めております。

「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観」は、江戸時代から続いてきたブドウ栽培と明治期に誕生したワイン産業を中心に、ブドウを振る舞った甲州街道勝沼宿、大量輸送が可能となった鉄道関係遺構、大水害後に造られた水防遺構、生活に密着した行事などの要素が積み重なってできた景観です。その特性や価値を明らかにすることを目的として、3ヶ年にわたる調査を実施しました。

本報告書を通じて、多くの方々に本市への愛着をもっていただくとともに、景観保全・継承の機運がいつそう高まれば幸いです。

調査及び報告書の刊行にあたり、地域の皆さまはもとより調査委員会委員の諸氏、また文化庁をはじめ関係機関の各位に多大なるご指導ご協力をいただきましたことを心から感謝申し上げますとともに、今後も引き続きご厚情賜りますよう、お願い申し上げます。

平成31年3月

甲州市長

田中 芳

目次

巻頭図版

例言

序

序 章 調査の目的と概要

第1節	甲州市の歴史・文化・社会的基盤	2
第2節	調査の目的・経緯及び対象地域概要	5
第3節	調査体制及び報告書の構成	8
第4節	調査過程と普及のための取り組み	11
第5節	調査における地区区分・呼称	14

第1章 自然的基盤

第1節	勝沼地域の地形・地質の成り立ち	16
第2節	勝沼地域の気候及び風水害	22

第2章 勝沼地域の歴史的な土壌

第1節	ブドウ前夜	26
第2節	流通往来の発達とブドウ産地の形成	29
第3節	ブドウ栽培・ワイン醸造の拡大と普及	31

第3章 扇状地を巧みに利用した生活・生業空間

第1節	町場・農村の土地利用の変遷と現在	36
第2節	生活・生業と水のかかわり	49
第3節	甲州街道沿いの町並みと建築	59
第4節	勝沼地域の生活文化	68
	[コラム] 校歌にみる景観認知 — ブドウに関する描写の出現	75
第5節	勝沼地域の寺社と年中行事	77
第6節	小結	87

第4章 伝統と革新を併せもったブドウ栽培とワイン醸造	
ブドウ栽培の農事暦	90
ワインの醸造工程	91
第1節 ブドウ畑・栽培の変遷と現在	92
[コラム] ブドウ畑の景観と四季	116
第2節 ワイナリー・ワイン醸造の変遷と現在	117
[コラム] 宮光園とその界隈の歴史の変遷	127
第3節 勝沼地域のワイン醸造施設	131
第4節 日本のブドウ栽培・ワイン醸造のなかでの勝沼	139
第5節 小結	152
第5章 甲府盆地の玄関口という立地	
第1節 近代の鉄道開通と物資輸送	154
第2節 観光地「勝沼」の形成	158
第3節 小結	164
第6章 「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観」の構造	
第1節 文化的景観の特性	166
第2節 景観単位	169
第3節 景観構成要素	172
第7章 「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観」の本質的価値	197
第8章 「勝沼らしさ」を未来へ：価値を共有するための取り組みの実施	201

図版出典

